

聴覚障害学生意思表示を促す支援者の役割とその支援プロセスの検討

ー大学の支援担当教職員に対するインタビュー調査分析を通してー

○ 関東聴覚障害学生サポートセンター 吉川 あゆみ (004859)

甲斐 更紗 (九州大学・009274)、有海 順子 (山形大学・009271)、益子 徹 (日本社会事業大学・008294)

キーワード：意思表示支援・聴覚障害学生・合理的配慮

1. 研究目的

聴覚障害学生の多くは大学入学まで情報保障等の支援を受けた経験が少ない現状にあるため、障害を認識し、主体性を育てるエンパワメントの必要性が指摘されている(石野ら, 2016)。しかし、意思表示を契機とした合理的配慮の提供には、支援者による意思表示支援の具体的な方法やプロセスの解明がさらに求められる。聴覚障害学生支援に携わる大学支援担当教職員(以下、支援者)を対象としたインタビュー調査では、聴覚障害学生意思表示支援を構成する支援者の役割として、35の概念・8のカテゴリー・11のサブカテゴリーが生成された(有海ら, 2017)。本研究では、先の調査で生成された8のカテゴリー間の相互関係に着目し、支援者の役割を通じた支援プロセスを検討することを目的とした。

2. 研究の視点および方法

2016年7～8月にかけて、聴覚障害学生が継続的に入学し、かつ聴覚障害のある支援者や聴覚障害を専門とする教員のいる大学6校の支援者13名(1校あたり1～4名)を対象とした自由記述回答の事前調査(31項目)及び半構造化面接法によるインタビュー調査(1校あたり2～3時間)を行った。データ分析には修正版グラウンデッドセオリー法(木下, 2003)を用い、分析テーマ(支援者の役割)に関する具体例に着目し、35の概念を生成した。さらに、35の概念同士の関係性を検討し、カテゴリーの生成を行なった結果、8のカテゴリーと11のサブカテゴリーが生成された。本研究では、8のカテゴリー間の関係性を検討し、そのプロセスを考慮して結果図を作成した。

3. 倫理的配慮

調査実施にあたっては、調査への協力は任意であること、得られた情報は本研究のみに使用すること、個人が特定されないよう配慮することを口頭説明し、書面による同意を得るなど、日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守した。

4. 研究結果

聴覚障害学生意思表示を促す支援者の役割(8のカテゴリー)の関係性についてまとめた結果図を図1に示す。以下、各カテゴリー間の関係性について述べる(<>はカテゴリー名、○内の数字はカテゴリー番号を示す)。支援者は、<④関係性の構築と促進>や<⑤聴覚障害学生の当事者性の涵養>を終始念頭においており、そのうち<①初回面談での対応>では、支援者はこの機を逃さぬよう一度の面談に多様な働きかけを実施し、<②情報保障の基盤形成>と<③情報保障の実践的見識の形成>への移行を図っていた。②では、

継続的に聴覚障害学生と関与し、本人の状況に応じて段階的に情報保障への認識の形成と具体的行動の促進を繰り返し、③に移行するための基盤形成を促していた。③では実際に情報保障を提供するにあたり、事前・事後に聴覚障害学生の要望と大学の提供するサービスについて調整を重ね、本人の納得を得た上で合意形成を図っていた。同時に、専門科目等への変則的な対応やゼミ等での発言・発表のサポートへと支援の発展も見られた。④は単独でなく①～③と相互関係を持って行われ、確実に通じ合えるコミュニケーション手段を通してラポールの形成を図り、聴覚障害学生自身の障害に関する悩みにも対応していた。⑤も①～③と並行して実施され、その他の聴覚障害学生との関係性の構築を意識して働きかけた結果、③を促進する様子が示された。＜⑥多様な聴覚障害学生への対応＞は②③の段階には至らないが、情報保障を利用しない学生にも④に基づき本人の気持ちの受けとめを優先しつつ、継続的な関わりを築いていた。①～⑥は直接聴覚障害学生に関わる支援であるのに対し、＜⑦環境整備＞は聴覚障害学生を取り巻く各関係者への働きかけを通じた間接的支援であり、①～⑥を支えている。＜⑧支援担当教職員が持つ支援技術＞も支援者自身の知識や経験及び大学の持つ資源が間接的に①～⑦を支えていた。

5. 考察

調査対象の大学にみられた支援者の役割は、情報保障の調整と提供を中心として、信頼関係の構築や他の聴覚障害学生との関わり等による当事者性の涵養を図り、環境の調整等も含む直接的・間接的働きかけを同時に実施していることから、概念・カテゴリーの有機的な相互作用による多角的支援を通して聴覚障害学生の意思表示を段階的に促進し、合理的配慮の提供に向けた合意形成を図るものと考えられる。今後、聴覚障害学生の入学が断続的な大学における意思表示支援のプロセスの検討も求められるであろう。

(本研究は、平成28年度PEPNet-Japanモデル事例構築事業「聴覚障害学生の意思表示支援～支援担当教職員の役割を中心に～」の一環として実施されたものである。)

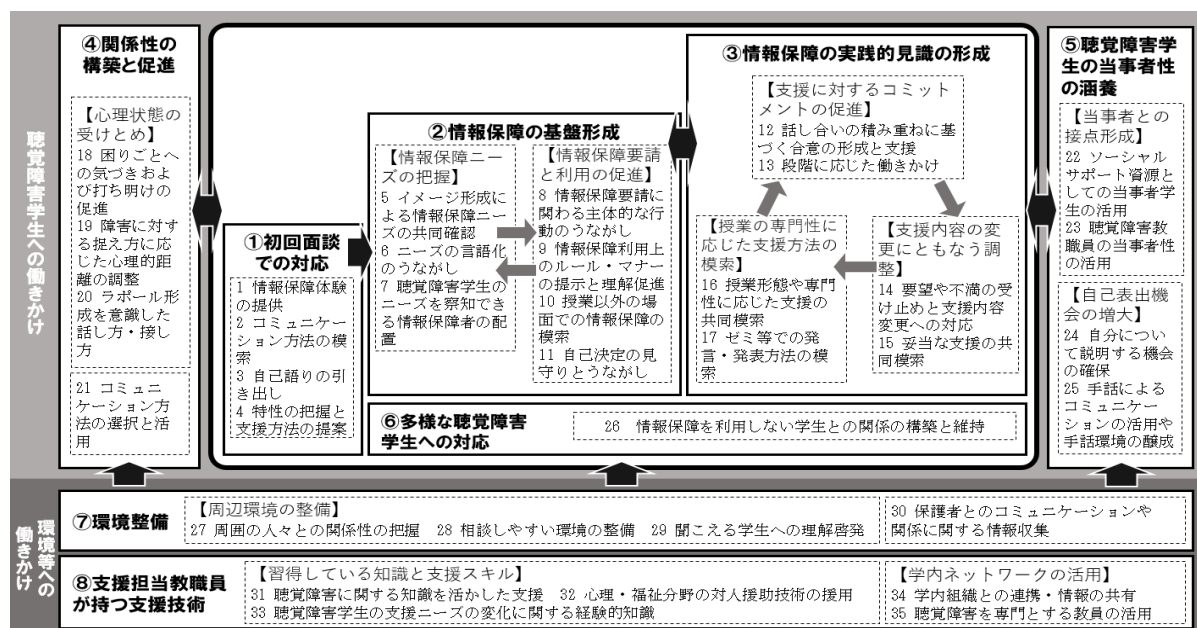


図1 聴覚障害学生の意思表示を促す支援者の役割と支援プロセス（○内の数字：カテゴリー番号／【】：サブカテゴリー名/明朝体数字：概念番号）